

私は、大きく 4 点について質問します。初めにフードドライブの活用についてです。

令和 2 年第 2 回定例会の個人質問において私が要望したフードドライブの実施が令和 3 年 7 月 1 日より開始されました。フードドライブとは、ご家庭にある未利用食品を集め、子ども食堂等にお渡しする活動のことです。食品ロス削減推進や食品の有効活用の観点から大事な取り組みです。対象となる食品は、賞味期限まで 2 か月以上あり、未開封で常温保存が可能な食品、例えば缶詰、レトルト食品、インスタント食品、乾麺、お菓子などです。

受付窓口は田端の富士見橋エコー広場館と北区清掃事務所となっています。

貧困、飢餓ゼロなどの社会課題に対し 17 のゴールが設定されている SDG s で、フードドライブは複数の課題に貢献する活動です。特にゴール 12 の「つくる責任 つかう責任」にある食品ロスは先進国の間で深刻な問題とされており、日本の家庭ゴミには手付かずの食品が年間約 2 万トンも含まれているといわれています。

フードドライブは、買い過ぎてしまったもの、誰かからもらって食べ切れないものなど、家庭で余った食料を寄付することから、この問題にも大きく貢献でき、さらには食品ロスを減らすだけでなく、他の社会課題解決の一步にもつながっています。

一方で、家庭からの食品を寄付するという特性上、寄付される食品類が偏ってしまうなどのデメリットもあると考えます。そこで質問します。

1、7 月から寄付が始まってからどのくらいの食品が集まり、どのように活用されたのか、実績をお示し下さい。

2、北区社会福祉協議会でも食料品の寄付を受付け子ども食堂等にお渡ししています

が、こちらとの連携はどのようになっているのか伺います。

3、フードドライブについて多くの方に参加して頂くために区民の皆さまに更なる周知をしていく必要があると考えますが区の見解をお聞かせください。

4、江東区では民間企業と協力協定を結び、民間企業の店舗内に食品の常設回収場所を設置していますが、頂いた食品を有効に活用するためには、配送手段、民間企業との連携を含め、ネットワーク機構の構築が必要であると考えますが区の見解をお聞かせください。

5、食品の受付窓口についても気軽に持っていけるように増やす必要があると考えますが、今後の方向性について区の見解をお聞かせください。

大きく2点目はひきこもり支援についてです。

「ひきこもり」は広い意味でのこころの健康の問題ととらえることができます。そしてそれは、「人と人との関係性の問題」として考えるべき事からであり、その人の長所や能力を生かせる関係性が失われてしまった状態が「ひきこもり」であるということもできます。地域社会のなかで孤立しているのは本人だけではなく、家族も同様ですが、しばしば家族も、自分達の抱えている困難について誰にも相談することができずに、困惑の度を深めている場合があります。「ひきこもり」からの回復のゴールは、ご本人がこころの健康を次第にとりもどしていくとともに、地域社会の中で新たな自分のあり方をとりもどしていくことにあると考えます。そして、自宅以外の場に、安心できる自分の居場所を見つけ、人との交流の場を見つけ、学ぶ場、働く場、社会に貢献する場を見つけていくことが回復の過程といえます。これは、同時にご家族も、家族自身の望む生活のあり方を見出していく過程でもあり、それはまた、

本人にとっても家族にとっても、「ひきこもり」という状態の中で失ってしまった、希望や、自分自身に対する肯定的な感覚、地域社会とつながっている感覚などを再び見出していく過程であるともいえます。支援という観点から考えると、ひきこもりの長期化は、家族関係のねじれ、深まる本人の挫折感、あるいは就学・就労などの社会復帰の糸口の減少などを招き、ひきこもりからの回復をより一層難しくする傾向があると考えます。多くのひきこもりが10代から20代前半に生じていることをふまれば、この年代の人々やそのご家族がアクセスしやすい支援が必要であると考えます。愛知県豊明市では市役所内に相談窓口を設置し、相談員2名が常駐するほか、月に2回医療機関から派遣される専門職が相談に対応しています。

まずは北区において、本人やご家族が相談できる専用窓口の設置が必要と考えますが区の見解をお聞かせください。

北区では、令和2年5月に、ひきこもり関係課連絡会を立ち上げ、今年3月18日に1回目のひきこもり相談会が開催され、5件の相談と9件の申し込みがあったと伺いましたが、7月8日に開催された2回目及び11/4に開催された3回目のひきこもり相談会での相談件数について伺います。また、3回開催した上で、ひきこもり相談会の効果について区の見解をお聞かせください。

相談会は定期的を開催することが重要であると考えますが今後の日程についてはどのようになっていますでしょうか。

また、ひきこもり当事者の方が相談窓口まで足を運ぶのは、ハードルが高いと考えますので、LINE等を活用した相談窓口を設置すべきと考えますが区の見解をお聞かせください。その上で、誰にも相談できずに苦しんでいる方を置き去りにしないため

に、北区としてひきこもり実態調査を行うべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

大きく 3 点目は高齢者の生きがいつくりについてです。高齢者が、毎日をより充実させて暮らす方法の一つとして注目されているのが「学び直し」です。文部科学省の調査によると、学び直しをしたいと考える理由について、60代は男女ともに「今後の人生を有意義にするため」が最も多くなっています。

新潟県で学び直しの機会として広範な広がりを見せているのが「シニアカレッジ新潟」です。2年間の基礎応用課程のほか、地域防災や食育などの実践講座も設け、卒業生はこれまでに9000人を超えています。高齢者に学習の機会を提供することに加え、仲間づくりや、地域活動の担い手として活躍されることを目的としています。

同カレッジは新潟県内3カ所で開講され、県内に住む概ね60歳以上を対象にしています。加齢とともに、健康への不安や、退職など変化する人間関係に直面するケースも出てきます。こうした変化をうまく乗り切ることができず、心身の健康を損ねてしまうと充実した生活が送れなくなるほか、社会全体で見ても医療費が増加することになってしまいます。これらの課題を解決するポイントの一つとして注目されたのが“高齢者大学”です。平均寿命が伸び続ける中、健康寿命も伸びなければ、生きがいがそがれてしまいます。生きがいの持続は介護予防や重症化防止にも一定の力を持つと考えられます。2年間を通じて幅広い教養を身に付けることを目標としていますが、高齢者にとってより重要なのは、共に学ぶ中で育まれる同窓の人間関係であると考えます。一緒に体を動かす健康体操などの実習や救急救命の基礎などは学

生同士のコミュニケーションが必要なことから会話が弾み、卒業後も互いの健康や健闘を確認し合う関係が続いていきます。「シニアカレッジ新潟」を卒業したメンバーからは、学び直しに関する喜びの声が寄せられています。学ぶことで心が耕され、鍛えられ、大きな幸福感をも得ることができる学び直し。学び続けることで、「人生100年時代」を迎えた現代にあって、心身の健康をもたらす大きな力になると期待されています。

北区においても、昭和52年度より毎年1コース「ことぶき大学」を開催しています。

学習内容は、毎年受講者の意見を取り入れながら決定し、健康維持に関するもの、趣味に関するもの、政治、経済、社会、歴史、文化に関するものなど多岐にわたっています。高齢化が進展する中で生涯学習への要望が益々高まっていると聞いておりますが、「ことぶき大学」の近年の受講生数と区として「ことぶき大学」の目的をどのように考えているのかお示し下さい。

「シニアカレッジ新潟」の取組みのように、自身が学ぶだけではなく、人間関係を深める場として、「ことぶき大学」を発展させ、更にそこで学んだことを地域に還元することで、生きがいづくりを実践し、健康寿命の延伸を図っていくべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

大きく4点目は田端・西ヶ原地域の諸課題についてです。

初めに田端文士村について伺います。東京には田端文士村、馬込文士村、阿佐ヶ谷文士村、落合文士村と4つの文士村があります。馬込文士村は、大正後期から昭和初期にかけて、東京府荏原郡馬込村を中心に多くの文士や芸術家が暮らしてい

た地域の呼称であり、現在の東京都大田区の山王、馬込、中央の一带です。著名な作家が多く暮らした歴史は当地の誇りとなっています。都営地下鉄浅草線の西馬込駅前にある商店街は「馬込文士村商店会」を名称しており、毎年4月には「馬込文士村大桜まつり」が開かれています。

阿佐ヶ谷文士村は、昭和時代を中心に東京府豊多摩郡杉並町阿佐ヶ谷（現在の杉並区阿佐ヶ谷地域）に文士などが集い、文士村が形成された地域の呼称です。

阿佐ヶ谷の若手の店主たちは、「阿佐ヶ谷文士村」にちなんだ「阿佐谷文士カレー」を開発するなど、歴史を生かした街おこしも行われています。

落合文士村は、大正時代から昭和初期頃までの間、東京府豊多摩郡落合村（現在の新宿区落合地域）に文士や芸術家などが集い、文士村が形成された地域の呼称です。

この4つの文士村で、文学を通して相互に親睦を深めるために例えば文士村サミットを開催し、これを核として新宿区の漱石山房記念館、文京区の森鷗外記念館、台東区の樋口一葉記念館等との連携を深めていくことが田端文士村を盛り上げるために重要であると考えますが区の見解をお聞かせください。

次に「のらくろ」のデザインマンホールについて伺います。

デザインマンホールとは、マンホールが設置されているご当地の名所やゆかりのある人物などをデザインしたもので、その地域でしか見ることができません。

最近では、デザインマンホールを専門に紹介するサイトや本なども登場するほか、デザインマンホールを巡る愛好家も増えてきています。

東京都では、令和元年度から区市町村と連携し、アニメ・マンガ・ご当地キャラクター等を活用したデザインマンホールの設置に取り組んでおり、令和3年10月29日

から12月24日まで、参加者がスマートフォンを使って、都内全域のデザインマンホールや観光スポット等を巡るスタンプラリー「TOKYO デザインマンホールデジタルラリー」を開催し、併せて、東京都が製作・支援したデザインマンホールの「マンホールカード特別版」の配布を開始しています。マンホールカードとは、各地域の特色があらわれたデザインマンホールを活用した手の平サイズのカード型下水道広報パンフレットで、これをきっかけに市民等の下水道に対する関心を高め、重要な社会基盤である下水道への理解を深めることを目的としています。また、マンホールカードの収集やカードに記載されたデザインマンホールの見学のため、県内外から観光客が訪れることから、他の観光施設への来客数増加等の波及効果も期待されています。

マンホールカードの特徴としては、配布場所が限定されており、その場所に行かなければもらえないため、集めるために現地に足を運ぶこと、集めることで発見できる楽しさを意図的に残すために、複数枚収集していく過程でカードに隠された記号の意味がわかるような設計が施されていること、デザインの説明や由来が、鮮やかな画像とともに記載されていること等があげられます。

北区には、田端の「のらくろ」をモチーフにしたデザインマンホールと赤羽に清野とおるさんをモチーフにしたデザインマンホールがあります。

「のらくろ」のマンホールカードは先月10月2日に田端文士村記念館にて配布が始まりましたが、どのような反響があったのかお示し下さい。

今後、デザインマンホールを増やし地域の活性化を図っていくべきと考えますが区

の見解をお聞かせください。デザインマンホールのモチーフとしては、アニメなどのキャラクターが多いですが、例えば日野市には新選組の土方歳三をモチーフにしたデザインマンホールがあります。

そこで、西ヶ原には渋沢栄一翁、滝野川には新選組の近藤勇などゆかりの人物がおりますのでこの方々のデザインマンホールを設置すべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

最後に飛鳥山公園への集客についてです。

大河ドラマ「青天を衝け」もいよいよ佳境に入り、11月14日の放映には飛鳥山公園内の渋沢邸が描かれました。大河ドラマの放映に伴う集客効果・経済波及効果は大河ドラマ効果とも称せられ、通常その効果はドラマ放映当年のみの一過性のものであり、翌年以降の需要の反動減が見られます。その原因として、ドラマ放映時の大量の情報発信と放映終了後の急激な情報不足が挙げられます。また、ドラマ放映時には、大河ドラマの登場人物をテーマに、自治体や観光推進組織においてキャンペーンや大河ドラマロケセットの公開等のイベントを実施するほか、旅行会社のキャンペーン、マスコミの特集記事等、民間事業者の情報発信が活発化し、集客に大いに貢献しますが、ドラマの放映が終了すると、ほどなく地域のドラマ関連の観光推進主体が解散して情報発信活動が低下し、マスコミや民間事業者の関心も次の大河ドラマ放映地に移ります。その結果、急速に人々の記憶から当該地域の印象が薄れ、観光需要の低下をもたらしてしまいます。

岐阜県可児市では「麒麟が来る」大河ドラマ館跡地を活用して、市の歴史や文化など魅力発信のための拠点施設「明智荘の館」を5月16日に開館しました。



大河ドラマで盛り上がった機運を逃すことなく、渋沢資料館との連携を深め、渋沢栄一翁と一体化した公園の整備を進め、飛鳥山公園の魅力向上を図るべきと考えますが区の見解をお聞かせください。

以上で質問を終了します。